

# RFIDを利用した定期積金処理システムご紹介

平成19年1月12日

佐賀信用金庫

## 当金庫の概要

平成18年3月末

創 立 昭和24年10月15日

本 店 佐賀市中央本町8番10号

預 金 102,074百万円

定期積金 5,731百万円 : 口座数 16,517口座  
: 契約金額 11,595百万円

貸出金 65,549百万円

役職員数 160名

## 店舗の概要

店舗数 15店舗（佐賀市郡13店舗、神埼市1店舗、鳥栖市1店舗）



## 導入にあたって

### 1. 定期積金※

信用金庫の主力商品。

訪問活動（集金）によりお客様との対面によるサービスを提供。

※お客様が6ヶ月から5年までの一定の期間、月毎に掛金を払込み、満期日に掛金に給付補てん金（利息）を加えた給付金が支払われる契約。

### 2. 「定期積金集金カード」

定期積金の事務処理の合理化・省力化のため、「定期積金集金カード」による本部集中処理システムを導入。

### 3. 本支店メール便の削減

人件費等の削減。

### 4. 個人情報保護法の施行

個人情報保護法の施行により、個人情報に関し安全管理措置が求められた。

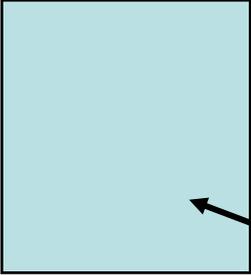
・技術的安全管理措置

## システム概要

1. 勘定系システム  
「九州信金共同事務センター」にて運用
2. オンライン補完  
金庫独自のカードシステムを構築
3. 集金カードの作成  
金庫情報系システムの定期積金新規契約情報により集中部門にて作成後  
営業店へ送付。
4. ICタグの情報  
店番・科目・口座番号・掛込金額・担当者コード  
ICタグを貼付した後RFIDのライターにより書き込む。

# ICタグつき集金カード

担当者		定期積金集金カード ( 日 )				支店
店番	顧客番号	口座番号	地区担当	種類	商品コード	
氏名			生年月日		生	
払込日	期間	掛込額	略図/備考			
満期日		契約額				
住所		〒				
TEL						
届出印		改印				



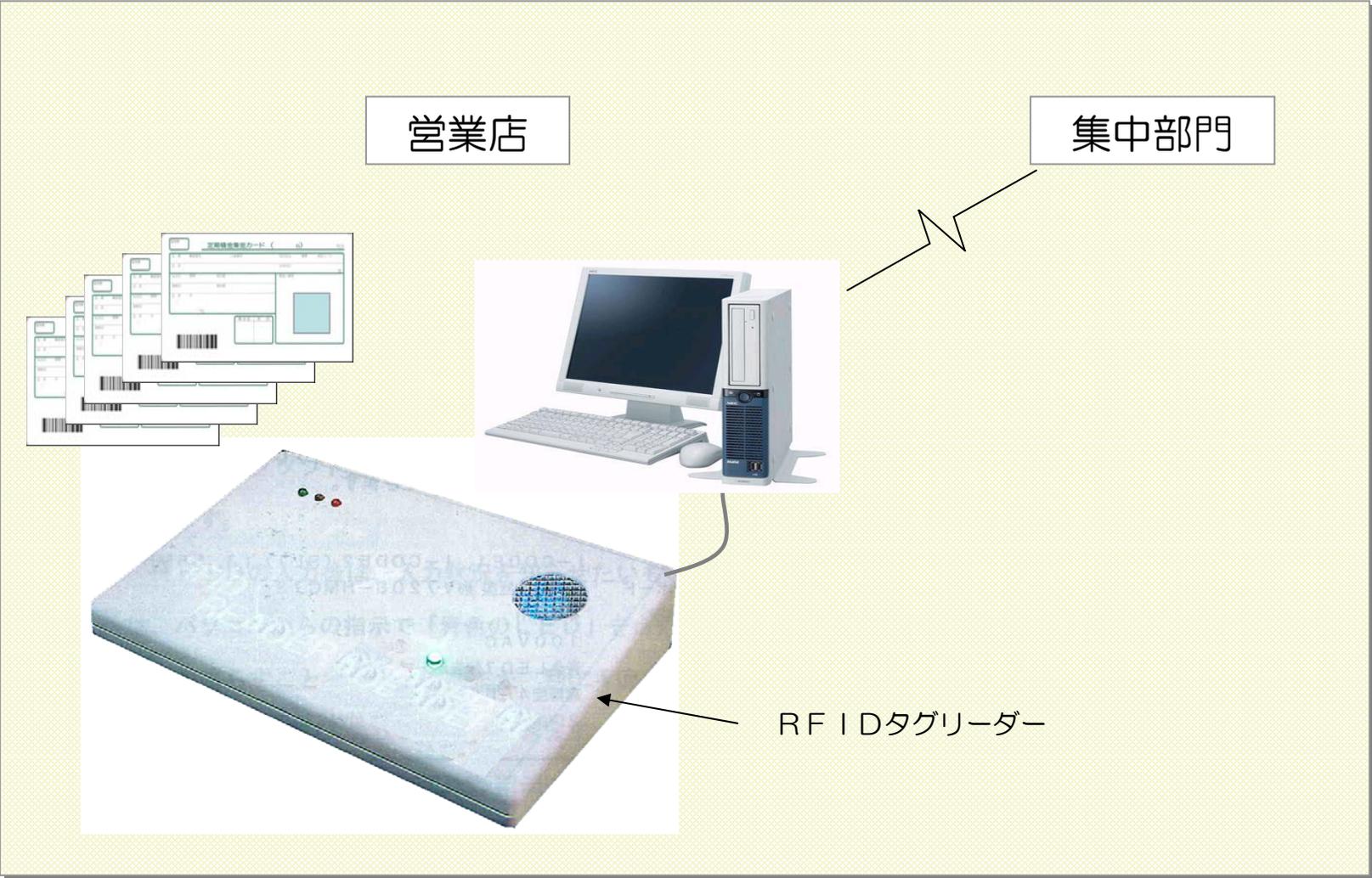
ICタグ

従来のバーコード

## 処理手順

- ・ 渉外担当者は帰店後、ICタグ付の入金カードをRFID ICタグリーダーの上にかざす。
- ・ 入力データは、パソコンで処理され、担当者毎の集金明細、精査表を作成。
- ・ 営業店全体の精査表を作成。
- ・ 入金データは、営業店から集中部門に伝送され、本部サーバは全店の入金データに集合後、勘定系オンラインシステムに送信。
- ・ ホストコンピュータで、定期積金マスター更新処理が行なわれ、結果を本部サーバに返信。
- ・ 集中部門は、更新結果リストを出力し営業店へに送付。

# 金庫ネットワーク



# RFIDタグ（ICタグ）の活用

1. バーコード (Bar Code)  
縞模様状の線の太さによって数値や文字を表す識別子。
2. RFID (Radio Frequency Identification)  
ID情報を埋め込んだタグから、電磁界や電波などを用いた近距離の無線通信によって情報をやりとりするもの、および技術全般を指す。
3. バーコードに対するRFIDの優位性
  - ・読み取り範囲が広い
  - ・書き込みが可能（再利用が可能）
  - ・リーダ価格が廉価
4. カードシステムへの活用
  - ・「入力の手軽さ」
  - ・ICタグの再利用が可能
  - ・目視により確認

誤読の確率が低く、操作面、システム面で、非常に有効

## 導入効果

1. 個人情報情報の漏洩防止
  - ・入金カードを本支店間において搬送廃止
  - ・ハンドリング作業の工数を削減
2. メール便の削減
  - ・2台による午前、午後各1便延べ4便（導入前）
  - ・2台による午後1便延べ2便（導入後）
3. その他業務の改善
  - ・審査部門 融資稟議の運用
  - ・集中部門 交換持ち出し・窓口収納金等
4. コスト削減
  - ・人件費コスト 削減平均人員1.5名（役職員数の1%）
  - ・その他コスト 車両費・燃料費・保険料等

# 今後の展開

## 金融業務の中に取り込む

### 1. システムの拡張

- ・「個人情報保護法」対応  
集金カードの「持ち出し・持ち帰り」管理
- ・「渉外支援システム」との連携  
訪問履歴等の管理

### 2. 他業務への展開

#### RFIDの特性を活かす

- ・認証管理  
入退出管理
- ・保管管理  
債権書類、各種届出文書
- ・授受管理  
本支店間文書授受、メール便搬送物の授受
- ・流通管理  
書類の進捗（流れ）